



アンケート  
特集  
2014年  
11月26日

発行所 岡山大学職員組合  
〒700-8530 岡山市北区津島中 2-1-1  
電話 086-252-1111 (代)  
7168 (内線)  
直通 TEL&FAX 086-252-4148

ホームページ <http://hb4.seikyou.ne.jp/home/ODUnion/>

メール [ODUnion@mb4.seikyou.ne.jp](mailto:ODUnion@mb4.seikyou.ne.jp)

## クォーター制・60分授業に関する 緊急アンケート集計



現在、岡山大学ではクォーター制・60分授業を実施するために全学で取り組んでいます。しかし、カリキュラムの根幹にかかわる重大な改革であるにも関わらず、教員の間で十分な議論がなされていないように見受けられます。組合では、今、教員のみなさまがどのように考えていらっしゃるかを調査し、大学執行部にみなさまの声を伝えるために緊急アンケートを行いましたところ、222回答をいただきました。ご協力ありがとうございました。集計し、いただきましたご意見をまとめましたので、お知らせいたします。

クォーター制について(Q3)	回答数
賛成	40
無意味な改革である	55
もっと時間をかけて検討すべき	98
その他	22
無回答	7
合計	222

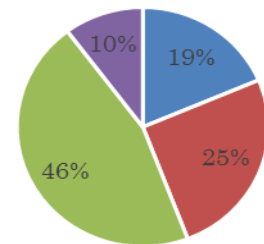
  

60分授業について(Q4)	回答数
賛成	45
無意味な改革である	72
もっと時間をかけて検討すべき	77
その他	23
無回答	5
合計	222

自由記述	回答数
クォーター制についての回答理由(Q3)	116
60分授業についての回答理由(Q4)	126
クォーター制と60分授業に対する意見(Q5)	102
組合に対する意見(Q6)	51

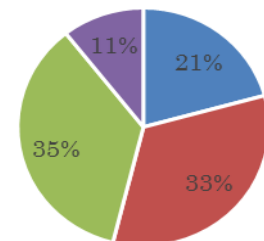
自由記述を上の方で見ると多数いただきました。  
ご協力ありがとうございました。  
抜粋を皆様にお届けします。

クォーター制について(Q3)



- 賛成
- 無意味な改革である
- もっと時間をかけて検討すべき
- その他

60分授業について(Q4)




- 賛成
- 無意味な改革である
- もっと時間をかけて検討すべき
- その他

### Q3. クォーター制についての回答理由

#### (1) 賛成

- 今一度、カリキュラムや内容を見直す良い機会と思う。また、留学生や海外への留学などに合わせることができる。但し、教員の負担増にもつながることは留意する必要がある。
- 日本の国立大学の今後の姿を問おうとするための改革であると信じている。組織の決定であれば、その構成員として同じ方向で精一杯努力したいと考える。今後の日本の教育や社会のあり様に至るまで、議論をつくり、授業形態のみならず教員や学生の能力の引き上げ(努力しない者は退いてもらう)なども考えに入れつつ、形のみ、インパクトのみに終わらない改革であって欲しい。運営者側はその方向性やビジョンを十分に説明していると、今の段階では言えない。必要な議論なく「一部の学部に合わせてような改革にしか見えない」という意見が出ても仕方ない現状だと思う。
- 時間をかければ良いものができるという考えがおかしい。
- 試してみればよいと思う。

#### (2) 無意味な改革である

- 充分時間をかけて検討していない。
  - 90分、セメスターの何が悪いのか?
  - 60分クォーターにしたらどうよくなるのか?
- 授業の質を高めることと、クォーター制や60分制にすることを混同して実施しようとしている。まずは現行の時間で授業の質を高める検証をすべき。
- 教員・学生ともに負担が増える割には、教育効果があがるようには到底思えない。文科省に対するパフォーマンスだが、付き合わされる本学の構成員には不幸しかもたらさない。
- 長期の休みがないと、研究室で行う学外・野外調査などができない。できても1~2週間のもので、まとまった成果はのぞめない。
- グローバル・スタンダードは2学期制です。なぜクォーター制にするのか、まったく理解できない。
- 教育学部の学生においては、不利益が多すぎる。一例として、教員免許状取得が困難になる。
- 実質賃金が低下する中、教員の負担が増加する。
- 改革したいだけである。クォーター制を導入する合理的意味が説明されていない。(費用対効果とか)。
- 留年学生が増加する。(落第科目を取りなおす時

間がとれないため)

- 補講・集中講義・実習を実施するだけの余裕がなくなる。
- 他でもクォーター制をとっている大学もあるが、地方の大学で教育上効果があがっているといううわさをきかない。外国人のためのクォーター制であるので外国人が3~4割くらいいる秋田国際大、ICUとかは良いかも知れません。
- 医学部では、あまり意味がないように感じる。かえって、授業日程が立てにくいのでは?
- 留学のしやすさを考えているとのことであったが、国家試験受験資格を得るためのカリキュラム内容では実質、学生は留学をすることができないため、クォーター制ということは、クォーターでの単位取得ができたうえで、次のクォーターにすすむという考え方になると思うが、クォーターとクォーターの間にテスト期間など設けることが実質はできず、何のためのクォーターなのかかわからない。
- 現状で精一杯で余裕がない。

#### (3) もっと時間をかけて検討すべき

- クォーター制にする方が授業成果の高まるものもあるが、逆のものもある。
- 改革ありきが先行している
- 学生にとって、予習・復習するための時間が不十分となるのでは…。課外活動の時間がとれにくくなるのでは。
- 教育を実施している現場の教員の意見をくんでいない。トップダウンの改革は危険である。学科→学部の意見を集めながら実施の可能性を考えるべき。
- 工学部では以前にクォーター制を実施したが、特に再履習者に不利益が生じることが判明し、とりやめた経緯がある。その当時、学生の勉学効果もほとんど感じられなかった。
- 積み上げ式の学習が必要な学問では、期間を細切れにしたところで何も変わらない。分野によって合う合わないが大きいのではないかと。
- 60分授業との組み合わせにより、クォーター制のメリット(留学がしやすくなるというメリット)が現実性を失い、学生への負担というデメリットが目立つ。
- クォーター制導入の意義の1つに、海外留学しやすい環境づくりという点が考えられるが、地方大学としての岡山大学をみる限り、留学者数が増えるとは思えない。
- 学部により、事情が様々であり、現行の制度を

そのままあてはめようとする、夜教免許取得捻出が減るとなると、教育学都の「売り」の部分を失う可能性がでる。

- 臨床実習等のスケジュール設定上、無理が多い。
- 突如、降って湧いたように出てきた話だった。60分授業の必要性、それによる課題などが全く不明のまま、この状況に合わせられるような気がしている。
- 一人講座、研究指導、学術運営、会議の多さなどを考えると、クォーター制にして、海外留学できるとも思わないし、研究時間も増えるとは思えない。
- カリキュラム全体を丁寧に検討すべきなのに、現状では、たんに時間あわせになってしまっていて、いかにも、もったいない！



#### (4) その他

- しかたがない。百害あって一利なしと思うが、学長決定なのでしかたがない。
- 文科省が予算をつけてくれなくなるそうなので仕方ないのかな…と思います。
- トップが細かい所を理解していない。
- 制度だけ作って運用を学部任せなら反対はしない。
- 実際にやってみないと分からないところもあると思う。海外留学の促進がしたいのであれば、もっと他のやり方もあると思う。
- 大学が本気でやる気があるのなら賛成。クォーター制が導入されると、これまで2グループに分けていた学生実験を1グループにする必要があるが、そのためには学生実験室の倍増が必要である。大学が学生実験室や講義室を拡充するのならば賛成する。できないのであれば、コテ先の改革なので反対。補講期間の確保も重要。土曜や8限講義を行うのなら休日出動手当等を出す覚悟が大学にあるなら賛成。代休など、と言うのなら反対。
- 一部の学部・学科で実施すべきである。学生にとってどうかと最優先すべきと考える。学生が免許・資格を取得する機会をうばったり、生活していくための時間をうばうようなことは、あってはならない。実施が難しい学部とする必要はない。当面の補助金のためのカタチにこだわった改革で、学生の声を聞いていない。(知らされてもいない) 学生募集の影響、さらには学生の質の低下さえ考えられる。
- クォーター制はOKだが、60分授業は全く意味がない。90分/週1コマだったものが、60分

+60分/週1コマと連続で講義をするというカリキュラムを組もうとしているから。これでは学生が疲れてしまう。

- すでに実施されているが、90分で行っていた内容を60分で説明すると、質問し考えさせる時間がなくなった。



#### (5) 無回答

- 週に2回講義して、1/4年でひとつの区切りをつけるのは、海外に6カ月または12ヶ月の留学する学生や、9月入試の留学生には、少しは都合が良いかもしれないが、その他の大多数の学生や教職員には、メリットどころか、出張などによるスケジュールの融通性がない点においてデメリットの方が非常に大きいと考えられる。他の方法で、留学生等に無理とならないカリキュラムの組み方があるのではないか。

#### Q4. 60分授業についての回答理由

##### (1) 賛成

- 学生の集中が途切れない。医学部ではH26より実施している。
- 医療系は、臨床実習の時間が増加するから。
- カリキュラム（授業計画）が既に綿密に調整されているのであれば。
- 試してみればよいと思う。
- カリキュラムを根本的に検討しなおす機会になっているから。
- 既に医学部では、今年度から60分になっている。(一般の教員の意見は聞かずに) 単位の実質化に直結している。90≠2時間、これは小学生でもわかる理屈です。海外校との単位互換が円滑に行える。
- 基本的には賛成である。方向性（運営者側）からの十分な説明、ビジョンの提示、それにもなう教員や学生の能力の精査等、(それだけじゃないだろ?と言いたくなる説明ではなく) 大きな、そして具体的な社会に対する、未来に対する本学の姿勢を見てからでないと、何をどうしたらいいのか、全くわからない。運営者側は時間をかけて学内の声により添うべき。

##### (2) 無意味な改革である

- 60分授業にした方が良い点が示されていない。一方60分制に移行するデメリットは数多くあり。
- 時間を延長すれば学生が勉強するというのは妄想に過ぎない。

- 少なくとも 60 分授業に関しては、学生の視点が全く入っておらず、文科省からの予算取得が目的であることは明白。執行部もそれが主目的と言っていました。例えば、一般教育ばかりの日と専門教育ばかりの日を分けることについて、学生の負担をどう考えるか、と聞いた時、そんなことは議論にもならなかった、と回答されました。また、後から気づいたのですが、その方式だと、2年後期くらいに週休3日にする学生が増える可能性がある。これは全く教育上よろしくないと思います。
- 学生に過重な負担をかける。教員の研究を阻害する可能性
- 現行の90分が60分×2の120分に移行することで、授業の時間数が増え、カリキュラムが非常にタイトとなり、授業の質を高める教材研究の時間がとれなくなる。
- 岡大を実験台にするのはやめてほしい。教員・学生双方に時間的負担が増える方向になっているが効果は疑問。
- 講義を行う教室の制約があり、講義の開講が隔年になる授業や、2単位科目から1単位科目になる授業が多数生じる。このことは、学生に対する教育効果が著しく低下することにつながる。
- 学生の講義への拘束時間が長くなるだけで、教育上の効果は疑問である。せめて50分か45分授業にすべきでしょう。
- 学生が講義ばかりで、自主的に研究したり、学外で学んだりする時間がなくなるため。学外で学ぶことのほうが有意義なこともある。
- 時間は有限である。教職員に対して今以上に研究も充実しろ、国際化もやれ、そして授業時間数も増やせと言われても全て出来るはずもない。何かに時間を費やせば、それだけ他の何かを減らさなければならない。大学本部は、何を減らしても良いと考えているのだろうか。
- 開講される授業数が大幅に減るなど学生が受ける不利益はきわめて大きい。近い将来、受験生が激減すると思う。
- 60分授業を週2回することは効果的だと思うが、非常勤講師を確保できないため、結局120分授業を週1回することになった。60分授業の効果は得られない。
- 数年来の授業改善によって、漸く学生を魅きつける授業体制が成り立ちつつある。90分授業であっても学生のモチベーションを維持する方法+単位実質化の方法はある。
- 教育学部の学生においては、不利益が多すぎる。



- 一例として、教員免許状取得が困難になる。
- 「教育」とは単に知識を詰め込めれば良いものではないはず。また、学生から知識を消化する時間を奪っていいのか？
- 大きな改革がいくつも並行すると、必ず無理が生じる。変革期に学ぶ学生に対する教育の質保障という面からとても賛同はできない。
- 60分授業といっても、1単位15時間を1クォーターで行おうとすれば、60分+60分の120分授業にならざるを得ない。現行の90分授業を120分授業にかえることであり、そのことに意味があるとは思えない。大学生になって、60分授業でなければ集中力が続かないといった論理は幼稚な感じがする。討議をさせるにしても、60分であれば、やっとな集中してディスカッションできはじめたときに、授業時間が終わってしまう。
- 「改革のための改革」であることは明白だが、数億円の補助金のために教育を犠牲にするべきではない。
- 教育学部は今まで特徴化して来た複数(副免許)は実行不可能。その他培ったメリットを失う恐れが大。



### (3) もっと時間をかけて検討すべき

- 改革ありきが先行している
- 60分授業の弊害が議論されていない。
- 文部科学省の意向に無批判にすぐ追従することに疑問を感じる。
- 学生にとって、授業選択の自由度が低下する。現行制度からの移行に際し、未取得の必修科目が授講できないなどの理由で、多重の留年が発生する。非常勤講師の雇用回数が増加するため雇用が困難になる。
- 60分授業については学生の集中力を考慮すると一定意味があると考え。しかし、学生・教員の負担が増えることは、教員のモチベーションを下げ、入学者の減少につながると考える。
- 60分授業その自体は制度本来の姿に戻すことであり、反対できない。必要なことだ。学生にとって勉強時間が1.3倍になるが、今の学生をみていると必要だ。ただし、それが教員の授業負担増加にならないための工夫が必要だ。
- 学部により、事情が様々であり、現行の制度をそのままあてはめようとする、夜教免許取得捻出が減るとなると、教育学部の「売り」の部分を失う可能性がでること。
- 教授すべき内容が少なくなり、十分な知識を与

えられない。自主学习する程、学生は意欲的でない。

- メリット・デメリットについて、もっと知る必要がある。特にデメリットについて。しっかり対策を考えておかないと、教育の質が低下すること以外に、教員の件教状態への影響にも関わってくるのではないかと心配している。
- オムニバス形式の多い医学部の講義に60分で、一単元を伝えるのは難しい。



#### (4) その他,

- しかたがない。時間的に適当かもしれないので。試してみる価値はあるかもしれない。
- 全学で同時に実施するという計画にしては十分な根拠がない。部分的なトライアルにより成果を検証すべき。
- 60分授業は検討すべきことかも知れませんが、単位がらみのことがあり、国家試験（実習をとまなう）に必要な単位をクリアするには、課題が多すぎるように思います。専門学校になる。
- 大筋で導入してよいが、柔軟な対応、科目や授業形態（実習など）によっては、60分授業に不都合もあり得る。
- 不明。具体的なことについて、誰も教えてくれない。講座内で討論もないから。

#### (5) 無回答

- 来春からの運用では、極力60分講義を2つ連続で入れて事実上120分講義を行うとのことであるので、学生の集中力を120分保つのは、益々至難の業である。さらに、肩書に「…長」とつく教授の話として、どうせ早めに講義を終えて事実上90分ぐらいにすれば問題ないとの発言も聞き、この授業改革が、文科省にゴマをすって運営交付金をだましとり、教職員と学生には、（大学の運営費が減額されないメリット以外に）、改悪にしかならないことは、大学運営に携わる教授にも明らかである。

#### Q5. クォーター制・60分授業に関する意見

- 大学が文科省から予算をとる必要があるのはわかるが、もう少し考えてやるべきことをやってほしい。
- よくないと思うが、学長の決定にはさからえないため、やむを得ない。
- 本当に学生や教職員のことを考えているのか疑問。
- 今の制度と比べ、教育的効果が高いというエビ

デンスが乏しい。反対です。よく考えてから動くべきです。

- 具体的な検討もないまま、実施ありきで進んでおり、大変困惑している。メリットもデメリットも十分見えない。
- もう一度教授会の意見を聞き、見直すべき。
- 文科省が受け入れないので、仕方がないですね。しかし、教育は実験ではないので、慎重にしてほしいですね。
- 学内での議論を十分にせず、トップダウン的に実施を決定したのが最大の問題。その割には明らかに考えうる問題点に対する明確な回答が用意されていない。
- 仮に実施が決まっているのなら、教員・学生の負担が増えないようにすべき。部局まかせにせず、本部が具体的な数値目標を作って、講義の総時間が増えないようにすべきである。
- 決定事項のみがおとりてくる最近の運営には問題があると思う。その中身にほとんど有機的な意図、モチベーションを見いだせない。
- 今まで各学部で行った（行ってきた）教育・研究の方法の検証をしてから、行うべき。弾圧のようなおかしな空気がある。
- 結局だれも結果責任がとれない（とらない）トップダウン的改革は良いものを生まない。トップは何がしたわけ？学生にしわ寄せの行くことだけはやめて欲しい。
- 大学が講義室・実習室の拡充、土曜講義の際の休日出勤手当など、本気で対応するなら賛成する。設備等が現状のままだったり、土曜日講義で平日代休などと言うのだったら、無理がありすぎる。
- 教員から出されている懸念を無視して実施した場合、その結果について、責任をだれがどうとるのかを明確にしてほしい。例えば留学生の増加や、志願率の低下や、移動時間短縮による遅刻の増加など。
- 改革パラノイアに洗脳されている大学執行部に失望しています。医学部の授業方法を全学に強制しないで欲しい。
- 単なる小手先の制度をされても、大学としての競争優位は生みにくいと思う。
- 教育の質の向上には、良い授業の仕方等に関する全学的なFDを行うのが本道である。現場の教員の納得、理解を得ないまま、クォーター制・60分授業を導入することは、大学執行部に対する不信を招き、現場の教員の士気を下げる。



- 授業、研究を実施するのは現場の教員である。執行部は大学の存続をかけた対外的活動と学部の職員が充実した活動ができることの両立を可能にするビジョンを立案すべき。現状では後者がないがしろにされている。
- I think the upper management needs to research this issue more deeply and consult with faculties, centers and most importantly the student body before implementation.
- 教育改革を進めるプロセスとして、各学部で教授会での論議を回避したことは、姑息である。各学部から時間割を提出する際には、教授会の承認を避けて通れない。その時点で不承認となれば時間割を本部にあげることは出来ず、改革はサスペンドされるだろう。
- 教員が納得したとしても、学生はどうなるのでしょうか。家計を助けるためアルバイトをしている学生もいるので、講義終了が18:30では遅いのではないかと。
- 岡山大学を辞めたくくなりました！
- 大学としての明確な方針も決まらず、作業を強要されているように感じる。教育の質を高めるというのは、クォーター制・60分授業にすることなのか、大いに疑問を感じる。事務的な作業に労力を使わせる執行部のやり方にも疑問を感じる。教員の数は削減…。無理なシステムの改革…このような中で良い教育が行えるとは思えない現状がある。岡山大学は何を目指しているのかがよくわからない。
- “H28年度から実施”ということだけが先に決定していることから、このための作業(委員会等)が優先となり、他の仕事に費やす時間が減っている。
- もうへトへト。
- とにかく講義の中身を改善するしか作りが大切。そちらに人とお金と時間を集中させるべき。
- 文科省は、将来の岡大の事は考えていない。岡



大は、旧帝大ではなく、一地方大でもない。その位置づけを理解し、岡山という地域性を踏まえた特色ある未来像を打ち出すべきではないか？ 国際化にしても、遅れている岡大が他大学と同じ方向性の国際化をめざすのではなく、遅れていることを逆手にとって、まったく別の国際化を考えてみてはどうだろうか。そのような新しい未来像を作り上げて、その上で60分クォーター制が形として出てくるのであれば(前述のように60分がやれるかは疑問) おおいに賛同したいし協力もしたい。文科省が気になるのであれば、大学執行部には、通産、厚労などを巻き込んだ将来像をえがき、文科省を牽制するなど政治力も使う事を願う。

- 執行部はなぜそれほど文科省のモルモットになろうとするのか理解できない。
- 医学部では、一部教育企画の教員の意見のみで、どんどんカリキュラムが変更されている。なんともできない空虚感のみです。
- 世界の基準に合わせると言う事には賛成しますが、同時に①日本の大学は入るのは難しく、出するのに簡単②大学を出ても社会の役に立たない。③その他なども改革する必要があると思います。60分講義にしても、全体の講義時間は変わらないのか？ 単位として見るので、教育1人あたりの講義時間は減るのか？ もし、講義時間が減れば、教育レベルは落ちると思います。このような事もよく議論されたのでしょうか？

## Q6. 組合に対する意見

- 特に、60分制は教員のみならず学生たちの生活にも負担を強いる。徹底的に反対して、無意味なことを止めさせるべく尽力して頂きたい。
- 今回の改革は成功するとは思えず、他大学のようにもとに戻す可能性も充分あると思う。改革による矛盾が噴出した時点で、組合には制度改革を大学当局に強くせまって欲しい。

## 組合運動の成果



60分・クォーター制導入に対する職員組合からの要求と質問に対する回答のなかで、「教職員の研究条件、労働条件の悪化や、学生の学習条件、生活条件の悪化をもたらすことのないように努めることは当然のことである」との回答を得たことは成果である。

しかしながら、このアンケートへの感想に示されているように、大学構成員からは、何のために実施するのか分からない、そのことを真摯に構成員に伝える姿勢が大学執行部に欠如しているとの声が多かった。ま

るでSGUでつく5億8千万円のために取り組まれているかのごとくである。それにしても、このお金はどこに行くのか？ 手段が自己目的化することのないように、改革の目的を明確化させるとともに、目的と手段の関係を検証することが必要だと思われる。本学のために懸命に教育研究に尽くそうとしている教職員のモチベーションを著しく低下させたり、年俸制導入との相乗効果で、優秀な人が採用できなくなったりということのないよう、今後とも職員組合は、この問題について発言を続けていくつもりである。